

ピカイチ！青森の木



弘前公園三の丸、緑の相談所中庭にあるソメイヨシノは、幹の周りが5m82cmで、環境省の「巨樹・巨木林データベース」によると単幹のソメイヨシノでは日本一の太さです！

弘前公園は、ソメイヨシノを中心に弘前発祥の八重桜「弘前雪明かり」の原木など52品種約2,600本の桜が植えられ、桜の名所として親しまれています。また、弘前公園のソメイヨシノは、1つの花芽(花を咲かせる芽)から時には7個と多くの花を咲かせるため、豪華で迫力のある美しい風景が楽しめます。



昭和41年に県の木として指定された青森ヒバは、木曾ヒノキ、秋田スギとともに日本三大美林の一つに数えられ、全国の蓄積量の8割以上が青森県にあります。

シロアリや腐れに強いことから、古くから城や神社仏閣などに使用され、弘前城天守をはじめ数多くの建造物に用いられています。

世界自然遺産の白神山地等に生育するブナは蓄積量が全国1位、住宅部材に使われるスギ人工林の面積が全国4位のほか、県南地域に南部アカマツが広く分布するなど、青森県の名前が示すとおり、多種多様な森林が県土面積の66%を占めています。

資料：弘前市、県林政課

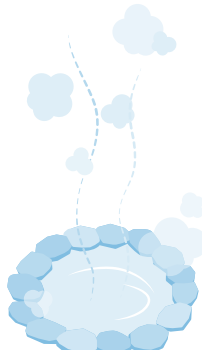
温泉いっぱい ん～幸せ!



環境省の温泉利用状況(令和3年度末現在)によると、青森県は温泉地数が全国第5位、湧出量は全国第4位の温泉の宝庫!

また、青森県の一般公衆浴場数は276ヶ所(令和4年度末現在)で、全国第3位!人口10万人当たりでは22.9ヶ所(令和2年度)とダントツの全国第1位!なんと全国平均の8.8倍です。しかも、青森県の一般公衆浴場のうち約8割が温泉を利用したものです。

さらに、令和4年家計調査(家計収支編・二人以上の世帯)によると、青森の「温泉・銭湯入浴料購入金額」(1世帯当たり)が全国第1位で、青森県民は温泉が大好きなことが分かります。



温泉地数 (か所)

1位	北海道	228
2位	長野県	192
3位	新潟県	137
4位	福島県	128
5位	青森県	124

湧出量 (ℓ/分)

1位	大分県	298,264
2位	北海道	195,015
3位	鹿児島県	174,709
4位	青森県	147,024
5位	熊本県	129,359

※温泉地…温泉を提供する宿泊施設を有する場所。日帰り温泉施設のみの場所は含まない。

混浴の大浴場『ヒバ千人風呂』で有名な国民保養温泉地第1号にも指定された「酸ヶ湯温泉」(青森市)、幻想的なランプの灯りの中で入浴を楽しめる「青荷温泉」(黒石市)、波打ち際に露天風呂がある絶景の「黄金崎不老心死温泉」(深浦町)、真っ黒なお湯がめずらしい「東北温泉」(東北町)、2つの系統の温泉を楽しめる「下風呂温泉海峡の湯」(風間浦村)など県内には個性的な温泉がたくさんあります。

※国民保養温泉地…環境省が指定した、温泉利用の効果が十分期待され、かつ健全な温泉地として優れている地域のこと。

暮らしやすい青森!



青森県には、皆さんに知ってほしい「暮らしやすさ」がたくさんあります。例えば、家を建てる土地の値段が全国で2番目に安く、家の広さも全国で4番目に広いので、ゆとりのある生活をするすることができます。また、気軽にサッカーやキャッチボールが楽しめるような広い公園もたくさん!

ふだんは青森に住んでのびのびとした暮らしを楽しみ、たまに「都会にお出かけ!」という生活スタイルも快適ですね。

データ

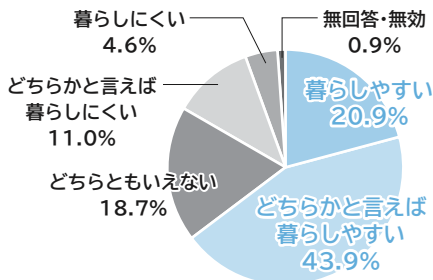
★住宅地が安い(住宅地の平均価格1㎡当たり)	東京都404,400円	青森県16,100円(※全国2位)(R5年)
★住宅が広い(専用住宅1人当たりの居住室の畳数)	東京都12.17畳	青森県16.57畳(※全国4位)(H30年)
★公園が多い(都市公園等1人当たり面積)	東京都7.6㎡	青森県18.6㎡(※全国9位)(R3年度末)

本県の暮らしやすさについて尋ねた「令和4年青森県民の意識に関する調査」によると、日常生活の中で、「新鮮で安全な食品が買えること」や「豊かな自然やきれいな水と空気が保たれていること」に満足している県民が多いようです。

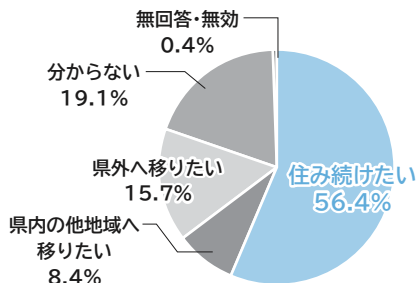
また、この調査では、県民の6割以上が、青森県を「暮らしやすい」と感じており、将来も青森県に「住み続けたい」と答えています。

令和4年青森県民の意識に関する調査

お住まいの地域の暮らしやすさ



住んでいる地域への定住志向



資料: 県地域活力振興課、県企画調整課

青森のピカイチな祭り



青森では、四季折々に様々な祭りが開催されますが、最も有名なものが、重要無形民俗文化財でもある「青森ねぶた祭」です。東北三大祭りにも数えられ、ミラノやロサンゼルスといった世界の都市から招かれるなど日本を代表する祭りです。

同じく重要無形民俗文化財に登録されている「弘前ねぶたまつり」や2016年にユネスコ無形文化遺産に登録された「八戸三社大祭」、1998年に80年ぶりに復活し、20メートル以上の高さを誇る「五所川原立佞武多」、京都祇園祭の流れをくむとされる「田名部神社例大祭」等、エネルギーが青森の夏を盛り上げます。



青森ねぶた祭



弘前ねぶたまつり



八戸三社大祭



五所川原立佞武多



田名部神社例大祭

青森の郷土料理



イチおしミニあらかると

ご当地グルメを通じた「日本最大級のまちおこしイベント」である「B-1グランプリ」は、実は青森県が発祥の地！2012年の第7回B-1グランプリでは八戸せんべい汁研究所が、2014年の第9回B-1グランプリでは十和田バラ焼きゼミナールがゴールドグランプリを獲得しました！

青森県は、地域によって気候や文化、生活環境が異なることから、農山漁村には郷土色豊かな食文化に根ざす伝統料理が育まれてきました。津軽地方は米、南部地方は雑穀、下北地方はイモを主体とした料理、沿岸地帯では豊富に水あげされる魚介類や海藻を使った料理などが大切に伝え継がれています。

主な郷土料理としては、もち米に赤しそやキャベツを入れて発酵させるご飯のつけもの「すしこ」や、自然の食品の色を使った美しい色彩や柄の「べこもち」、南部せんべいをだし汁で煮る「せんべい汁」、ホタテの貝殻を鍋代わりにして、だし汁にホタテなどを加えてみそや溶き卵で煮込む「貝焼きみそ/みそ貝焼き」などが挙げられます。



すしこ



べこもち



せんべい汁



貝焼きみそ/
みそ貝焼

青森の工芸品



青森県の伝統工芸品「津軽塗」は、弘前を中心とした津軽地方に伝わる堅く優美な外見を持つ塗物です。始まりは江戸時代元禄年間までさかのぼります。

青森県で唯一、国の伝統的工芸品として指定されていて、平成29年に本県初の重要無形文化財として技術指定されました。(漆芸分野での指定は人間国宝を除くと輪島塗(石川県)に次いで2例目です。)

また、青森のブナ材をテープ状に加工し、巻き重ねて形を作る工芸品の「ブナコ」は、美しい立体曲線を自在に表現でき、木材使用量も通常の10分の1程度です。ブナコのお盆・茶托・茶器を組み合わせた「Yauatcha Tea Set」はイギリスのインテリア雑誌が制定した賞を獲得し、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館に永久収蔵されています。

南部菱刺しは、江戸時代に、八戸を中心とする南部地方で生み出されました。当時、農村の女性たちは補強と保温のために麻に木綿糸を刺して、厳しい北国の生活をしのいできました。この技術が現在まで受け継がれており、麻地以外に木綿地やウール地も用いられ、ネクタイやタペストリーなど新たな製品にもその技術は応用されています。



つがるぬり
津軽塗



ブナコ



なんぶひしざ
南部菱刺し

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」



「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、1 万年以上もの間、狩りや漁、木の実などを採集しながら、ひとつの場所にとどまって生活(定住)した人々の暮らしやいのり・祭りの様子を伝える文化遺産で、2021年7月27日に世界遺産となりました。北海道・青森県・岩手県・秋田県にある17の遺跡で構成され、青森県には三内丸山遺跡をはじめとした8つの遺跡があります。

縄文時代は今から約1万5千年前に始まり、稲作が伝わる約2千4百年前まで1万年以上続きました。人々は、縄で模様を付けた土器や石器を使い、木の実や動物、魚や貝などを食べて暮らしていました。

自然に感謝し、自然と共に生きる縄文時代の暮らしには、現代に生きる私たちが学ぶべきことがたくさんあります。人類共通の宝として、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」を私たちの手で守り、未来へ伝えていきましょう！

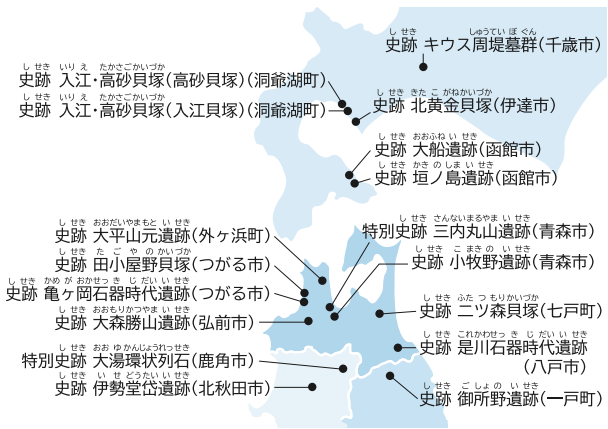


三内丸山遺跡



遮光器土偶

世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群



縄文遺跡群
ロゴマーク



資料：三内丸山遺跡センター

2026 初の『完全国スポ』開催!



国民スポーツ大会(国スポ)は都道府県対抗で毎年開催される国内最大のスポーツの祭典です。本県での開催は、前回のあすなる国体以来49年ぶりとなります。

あすなる国体は、冬季大会と本大会を同じ県で開催する初の「完全国体」でしたが、2026年開催の「青の煌めきあおもり国スポ」も、「完全国スポ」として、初めての開催となります。

また、同じ年には全国障害者スポーツ大会(障スポ)も初めて開催されます。みんなで一緒に盛り上げましょう。

※2024年から「国民体育大会」(国体)の名称が、「国民スポーツ大会」(国スポ)へと変わります。

実施競技数

競技は、青森県内のすべての市町村で行われます。

国スポ

・正式競技(都道府県対抗)	本大会	37競技
・正式競技(都道府県対抗)	冬季大会	3競技
・特別競技(高等学校野球)	本大会	1競技
・公開競技(競技の普及等)	本大会	7競技
・デモンストレーションスポーツ (主に県民が参加対象の競技)	本大会	38競技

障スポ

・正式競技(都道府県対抗)	14競技
・オープン競技 (県内外の障害のある選手対象)	3競技

大会の愛称

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ

青い空、青い海や湖、青い山並みなど美しく豊かな自然に恵まれた青森県で、あおもり国スポ・障スポに参加する全ての人々が、交流を深め、感動を創出し、いきいきと煌めくような大会を目指します。

大会のスローガン

翔ける未来へ縄文の風に乗って

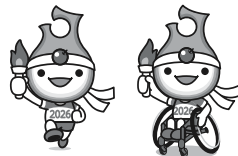
縄文時代の遺跡が数多く存在する青森から、新たな歴史と感動を全国に向けて発信し、未来につなげていきたいという願いを込めています。

大会の会期

国スポ 冬季大会	2026年1月31日(土) ~ 2月17日(火)
国スポ 本大会	2026年10月10日(土) ~ 10月20日(火)
障スポ	2026年10月23日(金) ~ 10月26日(月)

公式マスコット

「アップリート君」



特徴ある県の形と、ハチマキの中央にある「りんご」で青森県を表現しています。

鉄道のピカイチ集めました!



東北新幹線は、2020年12月4日に、全線開業から10周年を迎えました。

2020年10月からは、盛岡～新青森間の最高速度を260km/hから現在国内最速の320km/hに向上させるための工事が進められています。

さらに、仙台～新青森間では、これを超える360km/hでの営業運転を目標に、次世代新幹線(ALFA-X)の試験運転が行われています。このほかにも、鉄道には様々な「ピカイチ」がありますので、いくつか紹介します。

最高速度320km/h! 日本一の高速新幹線車両(E5系・H5系)「はやぶさ」



JR東日本の車両E5系「はやぶさ」は、最高速度320km/hで日本一の高速新幹線車両(E5系・H5系)です。また、この車両は国内新幹線初となるファーストクラス座席「グランクラス」が導入されたことでも話題になりました。

延長713.7km! 日本一の長い路線! 「東京～新青森間」

東北新幹線は、全線開業後、東京～新青森間の営業キロが713.7kmとなり、在来線も含めた中で日本最長の路線に! これまでの山陰本線(営業キロ673.8km)に代わり、日本一になりました。

全長26.455km！世界一の複線陸上鉄道トンネル「八甲田トンネル」

「八甲田トンネル」は全長26.455kmと、上下線が通る複線トンネルでは世界一長い陸上鉄道トンネルです。青森県中央部の八甲田山系の北端に位置し、八戸駅から新青森駅までの距離(81.8km)の約3分の1を占めます。



橋脚間隔150m！日本一広い橋脚間隔の新幹線鉄道橋「三内丸山架道橋」



三内丸山遺跡に近い国道7号青森環状道路をまたぐ「三内丸山架道橋」は、橋長450mのエクストラドーズ橋。橋桁を支える橋脚と橋脚の間隔は最大で150mもあり、新幹線の鉄道橋で日本一広い間隔です。

全長53.85km！世界一長い海底鉄道トンネル「青函トンネル」

津軽海峡の海面下240mの海底で北海道と結ばれる「青函トンネル」は、全長53.85kmで、海底を通る鉄道トンネルの中では世界一の長さを誇ります。当時の日本の最新技術を駆使し、昭和63年(1988年)3月に開通しました。その技術は、英仏海峡トンネル(全長50.49km)でも活用されています。

また、年末年始、ゴールデンウィーク、お盆の時期において、青函トンネル内を走る新幹線の最高速度を160km/hから210km/hに引き上げて営業運転がされるなど、北海道新幹線の更なるスピードアップに向けた取組が進められています。



イチおしミニあらかると 第3セクター鉄道「青い森鉄道」にもピカイチ！

東北新幹線の開業に伴いJ R東日本から経営分離され誕生した「青い森鉄道」は、現在目時・青森間121.9kmを上下分離方式(※)で運営されており、日本一長い並行在来線です。

また、青い森鉄道野辺地駅には、日本最古の防雪林があります。

※青い森鉄道では、県が線路や駅舎等の施設(「下」の部分)を、第3セクター鉄道会社が電車(「上」の部分)を所有し運営する上下分離方式を第3セクター鉄道としては日本で初めて採用しました。